



おばけ・ようかい だいしゅうごう

はにゆうしりつとしょかん

【おばけ】

「おばけでんしゃだおとうとうさぎ！」

ヨナ ビョルンシェーナ // 作 クレヨンハウス Eオ



「暗くなる前に帰る」ってママと約束したおとうとうさぎが、慌てて乗ったのは「おばけでんしゃ」。どこもかしこもおばけだらけ…おばけたちがおいかけてきます…。

「きょうふのおばけパンツ」

アーロン レイナルズ // 作 ビーター ブラウン // 絵 学研プラス Eキ



夜、ママに買ってもらった「おばけパンツ」をはいてベッドに入った、うさぎのジャスパー。するとパンツがあやしく、緑に光りはじめ…。

「ちがうちがう」

accototo // 作 大日本図書 Eチ



電気を消して、ベッドに入ったら、いろんな音がきこえてくる…。コチコチコチ、とけいの音。ヒューカタカタカタ、なんの音？もしかして…、おばけ!?

「ぼくのすきなおじさん」

長 新太 // 作 絵本塾出版 Eボ



ぼくのすきなおじさんは、くるまから月、硬いダイヤモンドまで、なんでも頭で「ドーン！」とぶっとばしてしまいます。でも、オバケの城をぶっとばすと、中からオバケが出てきて…。

「お化けのおもてなし」

川端 誠 // 作 BL出版 Eオ



お化け屋敷のお化けたちのところに、座敷わらしと袖ひき小僧が遊びにくることに。どうもてなそうか話し合ったお化けたちは、いろいろなどころにいるお化けに連絡をとり、ごちそうの準備を始め…。

「しょうちゃんとあけっぱなしおばけ」

高橋 徹 // 作・絵 絵本塾出版 Eシ



しょうちゃんは、玄関も引き出しもあけっぱなし。「そんな子には、こわーいあけっぱなしおばけがくるわよ」と、お母さんに怒られました。その後、あけっぱなしの引き出しの中から声が聞こえてきて…。

【ようかい・ゆうれい】

「妖怪のど自慢」

広瀬 克也 // 作 絵本館 Eヨ



今日は妖怪横丁のど自慢大会。ガイコツ、やまんば、みつめおんな、みのわらじ、ひとつめこぞう。みんな元気に歌います。演芸コーナーも盛り上がり…。

「ゆうれいなっとう」

荻田 澄子 // 文 大島 妙子 // 絵 アリス館 Eヨ



スーパーでみつめた「ゆうれいなっとう」。はしてぐるぐるかきまぜて、ねばーっといとをひいたそのとたん…!? こわくておいしいなっとう、どうぞめしあがれ!

「よっぱらったゆうれい」

岩崎 京子 // 文 村上 豊 // 画 教育画劇 Eヨ



ちゅうべえさんは、こつとう屋の番頭。ある日ゆうれいのかけじくが高く売れて大喜びしていると、なんとかけじくのゆうれいが「こんばんは」と言ってきて…。

「ようかいりょうりばんづけ」

澤野 秋文 // 作 佼成出版社 Eヨ



グルメ覆面調査員のとうふこぞうが出会った、おそろしいほどぼそぼそしたとうふ。「こんなにおいしいものは初めて!」と、早速料理番付で紹介すると…。

「雪ふる夜の奇妙な話」

大野 隆介 // 作 ログリン社 Eユ



真夜中、ハナコの枕元に小さな男が立っていた。「大切な人が、とても困っているのです」という男と一緒に山に入っていくと、一本あしとようかいむで、足で飛びはねる妖怪の群れに出くわし…。

「こめときゆうれいのよねこさん」

えばた えり // 作 小林 ゆたか // 絵 BL出版 Eヨ



こめときゆうれいのよねこさんは、夜にやってきては、手際よくおこめをとき、黙って帰っていく。よねこさんは毎晩必ずやってきたので、ぼくたちはよねこさんにすっかり慣れてしまい…。

「おいで…」

有田 奈央 // 文 軽部 武宏 // 絵 新日本出版社 Eオ



幽霊が出るというわさの、みどり公園のトイレ。うわさが広まってから、このトイレを使っている人はいないみたい。ただど犬の散歩中、ぼくはおなか痛くなり…。

「江戸の妖怪一座」

青山 邦彦 // 作・絵 フレーベル館 Eエ



江戸時代のさびれた芝居小屋の一座。役者がどんどん辞めていき、最後は、座長がひとりぼっち。すると、子どもがあらわれて、芸をさせてほしいというのですが…。